

「まち交大賞」全国大会で

長岡市のまちづくり計画が 国土交通大臣賞を受賞！

審査委員に聞く

市庁舎に、市民協働の機能を持たせた「シティホール」の発想はユニーク。にぎわいの創出という視点で、まちなかの行政機能の整備に国が補助するのは全国で初めての事です。



「まち交大賞」審査委員
国土交通省
都市総合事業推進室長
望月 明彦さん

長岡市の計画は、アイデア、テーマ、市民参加のプロセスという審査の3つのポイントでいずれもトップレベルでした。中でも、市庁舎と「平成の公会堂」、屋根付き広場を一体で整備して、地域の活性化、市民活動の場、にぎわいの場としての機能を持たせる「シティホール」の発想は独創的です。にぎわいの創出と市民協働という視点で、まちなかの行政機能の整備に国が支援するのは、長岡が全国で初めて。長岡の取り組みが、全国のまちづくりのモデルになることを期待します。

全国でこの事業に採択された計画は、千を超えます。その中から優秀な取り組みを表彰する「まち交大賞」で、長岡市の計画が最高賞の国土交通大臣賞に選ばれました。

全国千余のまちづくり計画
長岡市がその頂点に

創意工夫のまちづくりを
国が交付金で支援

今、全国各地の都市は独自の創意工夫を凝らし、個性あふれるまちづくりに取り組んでいます。そんながんばりに、国はまちづくり交付金制度で、財政面の支援をしています。

厚生会館はホールやアリーナ
にある「平成の公会堂」に

厚生会館は現在の機能をさらにパワーアップして、ホールやアリーナのある「平成の公会堂」に大きく生まれ変わります。

まちづくり計画の中心
は厚生会館地区の整備

老朽化の著しい厚生会館は、建て替えの時期を迎えています。長岡市のまちづくり計画のカギは、この厚生会館地区を中心としたまちなかの整備です。



▲藤野公孝国土交通大臣政務官(左)から表彰状を授与される長岡市長(6月15日・東京都内)

「平成の公会堂」、屋根付き
広場、市庁舎が三位一体に

「平成の公会堂」、屋根付き広場、市庁舎の三つの施設を一体で整備。まちなかに活気にぎわい、潤いを生み出す、市民の広場が誕生します。

39・2807



▲6月12日に開かれた初会合

委員会では、来年三月までに条例案に関する意見書をまとめます。

委員は、子育てや教育、農業などさまざまな分野の代表十人。児嶋委員長は、「男女共同参画の意識を抜きに介護や子育てなど現代の問題を解決するのは難しい。これまでの長岡の男女共同参画の取り組みを生かして長岡らしい条例にしたい」と話しました。

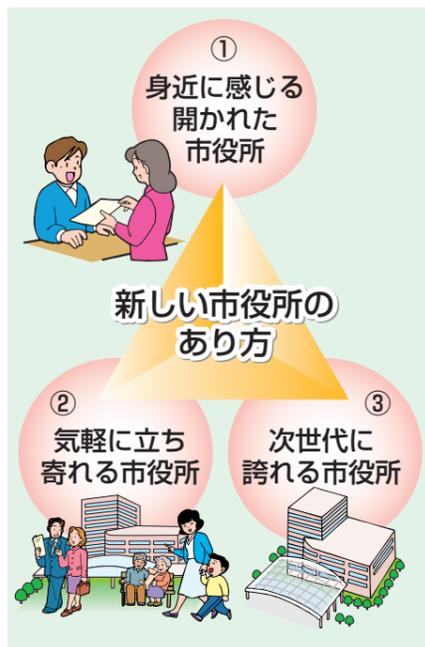
男女共同参画の条例作成へ検討委員会を設置

市は、平成二十年度中の条例制定を目指して、「男女共同参画推進条例」検討委員会(委員長・児嶋俊郎長岡大学教授)を設置しました。

ミニ
ス

開かれた市役所、開かれた市議会を目指して 市民協働の「シティホール」 市民委員会で検討進む

長岡市は、中心市街地に整備する市役所のあり方を検討するため、「新しい市役所検討市民委員会」を設置しました。委員会では、市役所のサービスのあり方や再配置の方針などを検討。年度内にプランをまとめます。



開かれた市役所とは
開かれた市議会とは

中心市街地に整備する市役所は、「平成の公会堂」と屋根付き広場が一体となった市民協働の場。建物だけでなく、市民サービスや市民協働など

ソフト面でも新しい時代にあ
さわしい市役所を目指してい
ます。

市民委員会(会長・原陽一郎長岡大学学長)では、地域や福祉団体の代表など十五人の委員が、開かれた市役所や開かれた市議会の実現に向け

①身近に感じる
開かれた市役所

②気軽に立ち寄れる市役所

③次世代に誇れる市役所

合併後の市民のシンボルとしての市役所、環境問題、高

迷わない、待たせない窓口
サービス、出会いや協働の場
となる開かれた市役所

②気軽に立ち寄れる市役所
「平成の公会堂」や屋根付き広場と機能連携して、市民が気軽に立ち寄り、各地域の魅力に触れられる市役所

③次世代に誇れる市役所
合併後の市民のシンボルとしての市役所、環境問題、高

て、利用者の立場で、基本的
な考え方や備えるべき機能に
ついて検討を始めました。

市役所のあり方を
3つの視点から検討



▲6月19日に開かれた第2回委員会



▲代表して20団体に感謝状を授与

委員会では、市役所に組み
込む機能や中心市街地への移
転による効果なども検討し、
年度内にプランをまとめます。

年度内にプランを策定

委員からは、「市役所だけでなく、議会も開かれたものになるべき」「メッセージ性のある明るく、楽しい市役所を」「市政を身近に感じてもらう仕組みがあれば市民協働につながる」などの意見が出
されていました。

災害復旧に尽力した工事関係者に特別感謝状を贈呈

7・13水害と中越大震災からの復旧に多大な功績のあった工事関係者や団体などへの特別感謝状の贈呈式を五月三十日、リリックホールで開催しました。感謝状を贈られたのは四一六団体。受賞者の代表は謝辞で、「自分の地域は自分で守るという使命感で復旧工事にあたりました。今後も長岡市の発展に尽くしたい」と語りました。

報告会では、実際に復旧工事に携わった技術者が、山古志地域での体験談を発表。新技術を導入して二十四時間稼働で復旧したトンネル工事や、河道閉塞から水を抜く応急工事の様子が紹介されました。

ミニ
ス